

川越町図書館等複合施設基本構想・基本計画（案）へのパブリックコメントの意見および町の考え方

番号	項目	パブリックコメントの意見の概要	町の考え方
1	5頁 2.-2 関連機能の概況整理	<ul style="list-style-type: none"> 教育センターの役割について、図書部門を移転するという前提であるのなら、その後の当センターの利用方法も詳細に分析する必要がある。未使用の室ができ、その活用範囲を検討して、その結果を反映した新施設の整備方針を決めることも必要である。学習室類以外の施設の設置面積を図書館、あるいは公民館部門にも求めることを整備方針で記述しているが。 	<ul style="list-style-type: none"> 23頁の表中「Room-9」に記載のとおり、新施設にも調べ学習にも対応した学習スペースを設置する予定ですが、新施設、教育センターを含めた全体としての活用方法や連携などを踏まえながら、引き続き検討していきたいと考えています。
2	5頁 2.-2 関連機能の概況整理	<ul style="list-style-type: none"> 広域的公共施設との連携について、各種関連団体との連携を視野に入れて計画的運営を行っていくとあるが、具体的な掘り下げがなく、各部門の整備方針から将来の連携構想が見られない。従って、各部門の規模、施設整備内容が十分に詰められていないのではないかと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域的公共施設との連携については、今後、具体的な連携の可能性を検討する予定であり、規模や施設内容に反映していきたいと考えています。
3	5頁 2.-2 関連機能の概況整理	<ul style="list-style-type: none"> 関連する公共施設、教育センター、いきいきセンター、各学校、幼稚園、保育園、児童館、などとの連携を考えて、立地は現在公民館がある場所ではなく、あいあいホール、いきいきセンターの建物にできるだけ近い場所が利便性がよい。町の行事や催し物の開催にも便利。そのため、駐車場は現在の公民館の場所に立体で低層階建て（2.3階建て）で整備してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 24頁にある「施設配置の概略イメージ」においても、新施設と駐車場の、規模およびスケジュールを想定すると同時に、敷地内既存中央公民館の解体を考慮した提案をしています。動線計画の利便性は重要な項目となりますが、立体駐車場の建設位置については、別敷地も含め、様々な可能性を検討していきたいと考えています。
4	5頁 2.-2 関連機能の概況整理	<ul style="list-style-type: none"> 現在の図書室の移転後のスペースに、学習スペースを充てるのは充分検討が必要。学習スペースは図書部門のある施設にあるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 23頁の表中「Room-9」に記載のとおり、新施設にも調べ学習にも対応した学習スペースを設置する予定ですが、新施設、教育センターを含めた全体としての活用方法や連携などを踏まえながら、引き続き検討していきたいと考えています。
5	6頁 2.-3 複合施設の整備課題の分析・整理・検討	<ul style="list-style-type: none"> 近隣図書館のデータ収集や分析が行われているが、ここに小学校、中学校、川越高校の生徒たちの学校での図書館の利用率、利用方法、利用目的等の実態調査のデータ収集分析が必要ではないか。どの図書館でも学生の利用率が相当高い。課外学習ということで学習の場を求めて友達と来館するケースが非常に多い。特に当地区は川越高校があり自転車通学が非常に多い。下校時、あるいは土、日曜日に来館し学習するケースが多くなること必至である。学生たちの利用を考えた蔵書も必要であるが、是非学習するスペースを相当な面積を確保したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、学校での図書館の利用動向なども踏まえながら、今後、蔵書や学習スペースのあり方などについて検討していきたいと考えています。

6	6頁 2.-3 複合施設の整備課題の分析・整理・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの空き室発生による利用方法の範囲等を検討し、中央公民館の役割、規模を分析する必要がある。今後、利用団体が多種多岐にわたり利用率が相当上がると予想される施設である。将来を見据えた拡張性のある施設計画を策定するためのデータ分析が必要である。高齢者の社会となりつつある状況から、将来を見据えた規模を計画したい。年代別に、利用者アンケートを取り規模を設定することを考える必要あり。現況、22年度バージョンから10年先を見た場合と、20頁に記載してある部屋数での対応は？教育センターとの連携を具体的に検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・23頁の表中「Room-9」に記載のとおり、新施設にも調べ学習にも対応した学習スペースを設置する予定ですが、新施設、教育センターを含めた全体としての活用方法や連携などを踏まえながら、引き続き検討していきたいと考えています。 ・基本計画（案）の作成にあたっては、現中央公民館の利用実態、川越町の将来人口の予測等の分析や、関係者への問題点のヒアリング等を実施した上で、それらを反映した内容としています。人口予測については、川越町は増えても、周辺は減るという予測もあり、総合計画で検討した期間以降は、横ばいになるとも予測されていますので、今後の総合計画の見直しにあわせて再検証したいと考えています。 ・さらに20頁「現状規模の考察」に示したような、余裕を見込んだ、将来対応の機能も検討しています。
7	8頁 2.-3 複合施設の整備課題の分析・整理・検討 1) 図書室の現況の整理 「現図書館の問題点」	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習スペースが少ない。」、「学習スペースの隣の飲食スペースでの会話が聞こえる。」この2点は利用していて特に感じる。新設される複合施設には、広い学習スペースの設置と、学習スペースの静寂を求めたい。 ・また、学習机は現在の様な長机だけでなく、仕切りのある机もあるとよい。 ・学習スペースは、図書館外でなく、図書館内にすることで、本の必要な学習もいちいち本を借りる手続きなしで本を閲覧することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター内の図書室移転後のスペースについても、学習スペースやその他の利用も含めて、引き続き検討していきたいと考えています。ご指摘を踏まえ、基本設計段階において、学習スペースの規模、レイアウト、形態等について検討していきたいと考えています。 ・また、現状は、会議形式・スクール形式等のレイアウトの多様化を目的に長机を設置していますが、基本設計以降では個人用の机（キャレル）の設置についても検討します。 ・23頁の表中「Room-9」に記載のとおり、新施設には調べ学習にも対応した学習スペースを設置する予定です。
8	10頁 2.-3 複合施設の整備課題の分析・整理・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・川越町という小さな町単独での古物、古文集の量、質について町民が興味をもたらず貴重な物件が収集できるかどうか疑問。川越町の枠を取り外し、近隣市町をも対象にした連携を考えた具体的な整備方針を立てるべき。常設展、そして他町、市からの借り物展示展がどの程度の内容、規模が町民の興味を誘うのか、埃をかぶっている資料館にならないようにするためにも小さな町の資料館は如何にあるべきか等、内容を分析して施設規模の整備方針を立てるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料部門の設置にあたり、古物、古文書と呼ばれる資料以外に、将来史的価値が出そうな資料、100年後に文化財になりそうな資料を収集して後世に伝えていく役割も果たす予定です。 ・近隣市町との連携は、開設に向けて検討を予定しています。また、他行政の科学館、美術館など資料館のジャンルを越えた連携についても、町民の生涯学習意識の高揚を目的に検討をすすめていきます。
9	12頁 3.-2 導入機能の設定と機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、郷土資料館、公民館は生涯学習と環境が連携した地域の情報センターとしての機能と役割がある。また、図書館は、各学校とも連携し、子どもの学習や読書活動をサポートする役割、子育て支援、就学前からののはじめて本に出会う場所としての役割もあります。それぞれに通じた専門家が重要なことは言うまでもありませんが、さまざまな使い方、利用の仕方を想定して利用しやすいよう調整し呼びかけていくコーディネーターが必要だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、3部門の連携・調整を図るコーディネーターの役割が重要との認識を持っており、その役割は館長が担うものと考えています。具体的な連携・調整方策や館長の業務等については、今後、検討をしていきたいと考えています。

10	12頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学習スペースは、本を利用する学習は閲覧室の中に、本を利用しない、主に受験勉強のための学習スペースは外に、と分けて作ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・23頁の表中「Room-9」に記載のとおり、新施設にも調べ学習にも対応した学習スペースを設置する予定ですが、新施設、教育センターを含めた全体としての活用方法や連携などを踏まえながら、引き続き検討していきたいと考えています。
11	13頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「一般成人の利用者を核に」とあるが、児童図書を中心に始まった経緯を大切にして、対象を「一般成人と子ども」にしてほしい。図書部門が大人と子どもを両方等しく大切にする、という基本理念をもったうえで、児童図書をさらに充実してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一般成人」という表現が、少し限定的な表現であるため、「一般利用者」という表現に改めます。 ・7頁の「利用者内訳」にあるように、現在の利用状況としては一般利用者の占める割合が高いことからそのような表現としています。が、児童図書の充実のみならず、施設全般において子どもや高齢者にも十分に対応した施設整備を行う予定です。
12	13頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者、高齢者の集う図書館とありますが、現在も利用が少ない15～20代の学生（高校生、大学生）にも利用しやすい図書部門であってほしい。具体的には、若者が興味を持てる蔵書も充実させ、若い人にも読書を進めるような図書部門であってほしい。また、高校生や大学生は受験勉強やテスト勉強で図書部門を利用する者も多いので、やはり勉強に集中できる学習スペースの設置は大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一般成人」という表現が、少し限定的な表現であるため、「一般利用者」という表現に改めます。 ・ご指摘のとおり、一般、子ども、高齢者のほか、高校生、大学生などの学生にも利用しやすい図書部門を実現したいと考えています。また、上記の回答にあるとおり、学習スペースの設置についても検討しています。
13	14頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「人気図書の購入やエンターテインメント性の高い資料も提供する」とあるが、子どもたちにとってよい本を提供することを第一に考えて慎重に選書してもらいたい。専任司書の選書能力を大切にして、ぜひよい本を選んでもらいたい。現在川越町の図書館のことを一番よく知っているのは、今働いている司書の方だと思う。もちろん意見はきいてもらっているとは思いますが、新しい図書館がよりよいものになるために、積極的に司書の方の意見や提案をとり入れてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画書（案）については、検討委員会のほか、随時、現在の司書の意見を反映して、策定しています。また、ご指摘のとおり、本施設がより良いものとなるために、今後の基本設計以降の段階においても継続して司書との連携を図り、意見を反映していきたいと考えています。
14	14頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学習スペースの確保について、現状の長机に3席は、個人利用が中心の学習者には利用しにくいとの声が聞かれる。個別の学習スペースが確保できるよう要望する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、学習スペースのあり方（規模、配置、形態、備品等）について、引き続き検討していきたいと考えています。
15	14頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今の教育センターにある閲覧机、椅子、学習用の机、椅子は余りにも簡易すぎる。是非新施設での机、椅子はそれなりのものを設置して欲しい。桑名メディアセンターの施設品質は使いやすくてよい。 ・い。 <p>サロンはむしろ、新施設全体の利用者を対象にするということを念頭にトータル的に設置規模、設置位置を決める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえて、地域の皆さまに長く愛着を持って利用して頂くためにも、基本設計以降の段階で什器・備品などの検討を行います。 ・サロン機能は23頁の「その他 ロビーラウンジ機能」に相当するものと考えており、設置する階数や配置は、25頁に述べましたが、今後の基本設計以降で具体的な計画を行う予定です。

16	14頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 「学校との交流」について、学習・読書支援両面についてそれぞれ考えられるが、この支援には、学校の蔵書の現状把握や学習單元においては、学校側の要望を確認することが必要だと思われるが。 (学校との話し合いの場の設置、利用における手順の作成、物流の方法なども含めて) 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の内容のほか、学校との交流・連携については総合学習や調べ学習への協力、団体貸出など、様々な可能性が考えられるため、今後の基本設計以降においては、定期的な情報交換の場を設けるなどの方法により、学校側の要望把握や連携方策の検討などを行っていきたいと考えています。
17	14頁、15頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに関する整備方針について、同じような内容が随所に記載されている。高齢者に関する記述も同様である。もっと簡潔な表現をして具体的な形で整備方針をうたってほしい。②と③、④と⑤はそれぞれまとめた表現が分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘を踏まえ、子どもについての表現は②と③、高齢者についての表現は④と⑤に、それぞれまとめる方向で検討します。
18	15頁 3.-2 導入機能の設定と 機能別整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に対して医療コーナーの設置をと、わざわざ頭出し記述してあるが、むしろいきいきセンターでの情報コーナーの充実によだねるべきであると思う。 どれほどの医療関連書をそろえるのか。今の教育センターにある健康に関する本が相当並んでいるが、高齢者はむしろ健康雑誌いわゆる、「壮快」とか「いきいき・・・」のたぐいのものを読んでいるようだ。その雑誌コーナー整備で十分要望に応えられる。特に取り上げるまでもないと思う。分析記述のようにこれからは高齢者が多くなり、生涯教育の場として健康的な生活を送っていただくためにも、一般社会人の閲覧室の充実を図って頂きたい。現在の教育センターの閲覧施設の質は決して良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 5頁の「関連する公共施設との課題」に記載のとおり、いきいきセンターを利用される高齢者が、その行き帰りに本施設を利用されることや、さらに、いきいきセンターとの連携を強化することを意図した記述であることをご理解いただければと思います。 また、ご指摘を踏まえ、閲覧室のあり方、配架計画、資料収集等については、基本設計以降の段階で具体的な検討を行う予定です。
19	16頁 3.-2-1 3) 公民館部門の 整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 「発表の場」や「出会いの場」を共用部門と位置付けて以下を提案する。 提案-1 「多目的ホールを作る」 <ul style="list-style-type: none"> 最上階に設け「現状の公民館同様3教室を附設する」 ユニバーサルデザインをフルに活用する。 防音構造にし、全てガラス張りにする。 ステージを常設する。(グランドピアノ常設) IT、オーディオ、音響等最新鋭の装置設備を完備する。 ホールは分割間仕切り「電動式」にする。 「発表の場」は全面ホールを使用する。 提案-2 素案では、共用部に対して教室をオープンにするとあるが、オープンにしないほうが良い。オープンにすると学習の妨げになり音響や会話で学習に集中力を欠き習得できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案-1について ご提案のような機能として、23頁の「Room15」：200㎡を充てる方向で考えておりますが、具体的な内容については、基本設計以降の段階で検討していきたいと考えております。 提案-2について 20頁に写真でイメージを示したとおり、MLK連携に寄与するような視覚的な開放感として「オープン」との表現であり、可動間仕切りやガラス間仕切り等での防音は必要と考えています。詳細については、今後、基本設計において検討していきたいと考えています。
20	23頁 4.-2 複合施設の施設内容および施設規模の計画	<ul style="list-style-type: none"> Room-6 読み聞かせ機能について、具体的な記述はないが、ぜひ読み聞かせのための部屋おはなしの部屋を子どもの本のコーナー近くに作ってほしい。東京子ども図書館にあるような、子どもの好きななかくれ部屋のような空間がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご提案を踏まえて、基本設計の段階で検討していきたいと考えています。

21	23頁 4.-2 複合施設の施設内容および施設規模の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般に公開されるオープンなスペースはもちろん重要だが、バックヤードの十分なスペースの確保が必要。書庫、倉庫、作業室など表から見えないスペースの確保と機能的な配置が求められる。また保管する資料の劣化を防ぐため、湿度管理が出来て、台車や大型のブックトラックが移動しやすいドアの設置などの視点が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階数や配置については25頁に記載していますが、ご指摘のバックヤードの充実も含めて、基本設計以降の段階で具体的な検討を行っていきたいと考えています。
22	26頁 4.-3 施設計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント時には、現状、駐車スペースのない場合も多くある。駐車場の台数確保のため、駐車場の立体化なども考えられているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 27頁の「駐車場先行工事について」に記載したとおり、ご指摘のような自走式立体駐車場を整備することを視野に入れていきます。
23	26頁 4.-3-2 駐車場規模の検討と整備方針の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の利用者の多くは徒歩あるいは自転車を利用するものと思われるが、安全のための通路や出入口の確保、自転車置き場の規模についてはどのように考えられているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4頁の「対象地区の周辺交通量の分析」のとおり、混雑時や登下校時を想定したアプローチ計画が必要と考えています。ご指摘の内容については、基本設計以降の段階において、具体的な検討を行う予定です。また、自転車置き場の規模についても、外構計画を考慮した余裕のある計画を行う予定としています。
24	26頁 4.-3-2 駐車場規模の検討と整備方針の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画（案）に記載のとおり、より多くの方が利用するためには、駐車場や駐輪場の整備は大切。せっかく車で来ても、駐車場が満車では諦めて帰ってしまうケースや、近隣に駐車し他の交通の妨げとなることも予想されるので、駐車台数はできる限り多く設ける必要がある。その点で、立体駐車場の整備に賛成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本設計以降の段階においても、駐車台数の算定について継続して詳細な検討を行い、必要な駐車台数を確保していきたいと考えています。
25	28頁 4.-5-1 管理運営計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8頁の問題点にもあるように、週2日（月・火）ある休館日を利用者の利便性を考え、週1日にすべき。また、利用者側からも閉館時間17時は早いと感じるので、最低でも18時位まで開館できないか検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘の内容は町としても認識しており、28頁「利用者に配慮した開館日・会館時間の設定」が実現できるように、検討していきたいと考えています。

26	33頁 6.民間活力の導入 について	<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営面での維持管理コストを含めたグランドデザインを示してほしい。28頁の⑤、⑥に、建設後の管理運営面が書かれているが、検証が不十分。 ・1.管理運営体制についての民間活力の導入について。 36頁に結論として、PFI、指定管理者制度の導入は困難としている。確かに専門分野に特化した複合施設でもあり、社会教育施設として無料開放が原則の施設であっては民間の参入するメリットは少ないと思われるが、逆に複合施設であるからこそ行政の縦割り意識の弊害を打破する斬新な運営が民間には期待されるのではないかと。例えば博物館などでは、ミュージアムショップが来館者の目的の一つにもなるくらい重要な施設であるが、検討すらされてもいない。これが民間であれば収益事業ともなり参加があるのでは。 ・2.コスト計算に維持管理費が含まれていない。 38頁に経済波及効果が試算されているが、この計算は新規建設費を基にした計算であり、将来にわたっての運営管理費の計算がされているのか疑問。28頁の⑥に上記に触れた記述はあるが、その試算は読み取れない。 ・この様な行政が作る構想案においては、建設する事に意義があるので、一度造ってしまえば後の管理は知らないという事が往々にして見られる。是非今後の人件費も含めた維持管理費、施設の改修費を含めた10年20年先をみた経済効果を算出してほしい。上記2つの事を検証すれば、直営方式と民間活用との比較が経費面でも運営面でもより明確になるはずで、再度民間活力のメリット・デメリットを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、民間活力の導入について検討を行いました。 ・更に詳細な調査検討を実施するまでもなく、施設用途及び複合性（図書館、公民館、郷土資料館）、施設規模、既往事例などから民活手法の導入は難しいと認められること ・直営方式でも一部業務の民間委託は可能であること などの理由から、本計画の検討内容での判断で特に問題はないものと考えています。 ・なお、下記のような個別の課題については、ご指摘を踏まえ、引き続き検討していきたいと考えています。 ・ミュージアムショップについては、一般的に話題性の高いコレクションを所蔵する美術館や博物館等で設置されており、本施設では難しいものと想定されます。飲食機能などを含めた付帯施設の導入及び運営形態については、需要や事業性等を踏まえながら、基本設計以降の段階で検討したいと考えています。 ・管理運営費の試算及びそれを含めた経済波及効果については、基本設計以降の段階で、具体的なプランや人員配置を含めた管理運営計画等にあわせて、検討していきたいと考えています。
27	33頁 6.民間活力の導入 について	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度やPFIは導入せず、直営で町が責任を持って管理運営してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6. 民間活力の導入」に記載のとおり、本施設においては指定管理者制度やPFIの導入は難しいと考えられるため、本町が直営により管理運営を行っていく方針です。ただし、効率的な管理運営を図るため施設の維持管理や受付等の一部の業務について、個別に民間委託することは考えられます。
28	33頁 6.民間活力の導入 について	<ul style="list-style-type: none"> ・施設においては指定管理者制度、PFIを導入して運営するより、従来手法の町が直営で整備、運営し、一部業務委託する手法が望ましい。複合する施設というだけなら、個々の施設の運営管理を民活することも可能かと思われるが、連携していくことを想定すると町直営運営がよい。そして、コーディネーターが必要。このキーマンになるコーディネーターが館内の連携や館外の施設との連携をはかることによって運営してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6. 民間活力の導入」に記載のとおり、本施設においては指定管理者制度やPFIの導入は難しいと考えられるため、本町が直営により管理運営を行っていく方針です。また、3部門の連携・調整を図るコーディネーターの役割は館長が担うものと考えていますが、具体的な連携方策や館長の業務等については、今後、検討をしていく予定です。

29	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災コーナー」なるものを設置したい。 ・伊勢湾台風で大きな被害を受けた当地域、そして活断層が走っている海域の沿岸地域の川越町にとっては、自然災害の恐ろしさ、そしてその対策について住民への防災知識の啓蒙活動が必要不可欠である。最近の東北大震災を契機にして近年に発生するであろう東南海地震に対する防災対策の必要性が緊急課題としてマスコミ等で大きく報道されている。これらに対応するためにも、本施設において常設防災PRコーナーを設け町民の防災意識の向上を図るべき。 ・当コーナーには、北勢地域の地勢の模型、過去に発生した災害の記録写真、またゼロメートル地域が大半である川越町にとって知っておかねばならない防災知識、たとえば朝明川が氾濫した場合の浸水マップ、そして予想される地震規模による津波の当地域への影響マップ、さらにはそれぞれの災害に対する避難場所の展示が常設展として必要である。また、災害のメカニズムの説明パネル等々の展示も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この基本計画書（案）では具体的には示していませんが、22頁表中「企画展示構成（例）」下欄に少し記載しました通り、ご指摘の様な趣旨の展示の必要性を感じているところです。また、町にも甚大な被害をもたらせた伊勢湾台風については、襲来から既に50年以上が経過しており、語る事ができる町民も老齢を迎えています。記録を残し後世に伝えていく良い機会であるので検討の価値はあると考えています。
30	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」を併設したい。 ・国庫補助、県費補助を利用して地域振興の一端として道の駅を作る。地域活性化、また雇用創出にも有効な施策である。直産物の販売、手芸物、特産品の販売を行う。他の道の駅での生産者たちは結構お年寄りが多い。おそらく当地域も同様になると思われる。高齢者たちの生産意欲が、ひいてはそのことが健康の源となり医者通いが減り、町の健康保険負担量が減り、町の財政には大きなプラスとなる。このことは、地方での道の駅解説で大きなメリットとなっていると聞く。また人が集まり、人の交流の輪もでき、活気のある地域が創出され、また隣接の新施設への利用者の増加も期待できる等、区画の一角にこうした施設を是非検討されることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の活性化、財政、雇用などに有効な提案であると思われるが、今回計画している敷地においては、新施設及びその駐車場以外に、他の施設を導入することは物理的に難しいものと考えられます。
31	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設が開館したあとの図書部門の資料費は大きくなった分増えると思う。しっかり確保してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現図書室から新施設の蔵書規模の増加に見合った金額を想定していますが、財源の確保についても引き続き検討していきたいと考えています。
32	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用者からの意見聴取はあったのか？ ・中央公民館を3年前から2つの団体で利用しているが、更新計画を聞いた事が無く、今回の広報で初めてその計画を知った。他の図書館、郷土資料館においてはわからないが、中央公民館も含めて現在利用している団体、個人に対してアンケートなどで、現状施設のメリット、デメリットを聞くべきではないか。建物が老朽化していることは充分理解しているが、アンケートの結果では、更新、新築では無く、現施設の改築を運営方法の見直しで済むかもしれない。是非、このパブリックコメントとは別に利用者へのアンケートを実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画（案）の作成にあたっては、現中央公民館の利用実態、川越町の将来人口の予測等の分析や、関係者への問題点のヒアリング等を実施しています。また、「川越町図書館等複合施設検討委員会」の委員には、公募委員として2名、町内団体の役職員として3名、町の読み聞かせグループ代表1名の方に入ってください、様々な意見をいただいた上で、それらを反映した基本計画（案）の作成に努めています。また、このパブリックコメントを実施し、広く町民の意見をいただくこととなりました。今後の検討段階においては、アンケート調査等の実施の必要性なども含めて、検討していきたいと考えています。

33	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ複合施設の新築なのか？ ・基本計画（案）に既存三施設の現状と問題点が記述されている。もちろん建物の老朽化、バリアフリー化、防災面への対応など現施設の整備の必要性は充分理解できる。しかし、基本計画（案）を読んだ段階では、複合施設として新設することが既成事実として策定されているように思える。上位計画である「第6次川越町総合計画」には既存施設の個別の活用計画が記述されているのに、なぜ複合施設として新築しなければならないのか、との計画変更の推移が十分に読み取れない。既存施設の利用者、活用の増加を目指すのであれば、既存施設の改築と運用面での変更で充分に対応できるとも考える。20億円の巨費での新築を考えるのであれば、既存施設の改築による利便性の向上と複合施設の新築との費用対効果を比較した上での複合案のメリットを示してほしい。また、既存施設の再利用計画にも言及してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3施設を複合施設として旧役場跡地に建替え整備する根幹となる考え方は、「3館の連携」です。それぞれの施設が連携しあい、「異世代間の交流を生み出すこと」、「事務管理一体化による事務スペースの縮小と管理スタッフの削減」、「駐車場など単独施設では限界がある機能の共有化による充実」などの基本計画（案）で検討したようなメリットが圧倒的に多く、連携していく方向となりました。 ・また、郷土資料館及び中央公民館とも、日本建築学会のJASS5「鉄筋コンクリート工事標準仕様書」によれば、大規模補修不要予定期間：30年という基準を超えるもので、構造体の大規模補修を必要とする建物と考えられ、バリアフリー化等も考慮すると、改修等では今後の円滑な利用が困難な施設であると判断しました。 ・教育センターの中にある図書室の跡地利用の計画については、学習スペースやその他の利用も含めて、引き続き検討していきたいと考えています。また、現郷土資料館の跡地利用は、重要な課題ですが、河川法等の規制もあるため、現在並行して検討中です。
34	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料部門での常設展示は必要か？ ・各地での博物館、資料館には必ず常設展示があり、その地域での歴史などを時代別に解るような展示がされているのがこれまでの常道である。しかし、常設展示とは、その博物館等が特定の資料（〇〇記念館）などに特化した館で、その展示物事態に魅力のある場合には有効だと思うが、川越町のように比較的歴史が浅い地域では何が常設展示になるのか。大手展示業者のプロポーザルの押し付けにならないか。基本計画（案）のコンセプトに「ハンズオン」の思想も取り入れられているのであれば、なお更に従来の施設にあるような「見せてやる」展示を排除すべきだと思う。 ・さらに基本計画（案）では500㎡の展示室（常設300㎡、企画200㎡）が確保されているので、500㎡全てを企画展示スペースとして活用することを提案する。常設展示は一度造ってしまうと、少なくとも10年間は更新されない事が多い。新設当初は物珍しさに訪れる利用者も何度も訪れて毎回同じ展示が10年間もされていれば、当然利用者は減少することになる。さらに新資料の発見やその更新されない10年間の歩みが常設展示に反映されないし、展示映像やAV機器等の耐用年数や展示手法の進化を考えると、常設展示が陳腐化する。さらに予算面を考えても常設展示を更新するのは巨額の費用が掛かるので、その結果、放置されてホコリをかぶった展示やAV機器が故障中になっているのが、多くの施設の現状である。 ・展示スペース全てを企画展示用として計画し、もちろん常設展示部門に相当する展示を含めて後述する「川越らしさ」を展示計画としてほしい。このことは22頁に「展示構成および展示演出例」や「地域回想」として書かれているので、是非とも柔軟な展示手法を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、常設展示室については、現郷土資料館の面積を基準に検討しています。町の歴史と文化財の紹介を担う常設展示は、町の歴史を後世に伝えていくうえで必要だと考えています。また、学校利用の視点からも設置が望まれます。常設展示室という枠にあてはめるかどうかについては、ご指摘をいただいたように陳腐化しないことを考慮のうえ、設計段階に展示構成を固めていくなかで資料の選定、展示手法の検討などと共に行う予定としています。 ・また、企画展示室は、地方資料館の企画展示室の平均的な面積を基準に検討しています。この企画展示室の活用については、いただいたご提案に配慮しながら、MLKの連携も踏まえて、今後検討していきたいと考えています。 ・今後は、ご指摘の通り、常設及び企画展示室は合わせて500㎡とし、上記によらず各々の面積については今後、弾力的に運営できる様な設えを検討します。

35	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画（案）の随所に「川越らしさ」を強調している記述がある。この事には賛成だが、そのコンセプト「川越らしさ」を高めるための提案を以下に示す。 <p>1.子ども中心の施策を考える。 現在の図書室では子どもの本の充実に力点をおいていて、基本計画（案）でもその方針で子どもを対象とした図書の充実を図る計画となっている。そこで「川越らしさ」の一つのキーワードに「子ども」を中心に考えてみれば、図書部門では児童図書の充実、展示部門ではハンズオンからチルドレンミュージアムへの発展、さらに基本計画（案）にもあるボランティア活動で地域と子どもの係わりなど複合施設ならではの施策が考えられる。さらに既存の児童館や教育センターとの連携も含めて、町全体が「子ども」を育てる、見守る環境作りをこの計画に反映すべきである。</p> <p>2.郷土史部門への自然・生活面からのアプローチを。 一般に郷土史と考えれば、地域の伝統、芸能、郷土の古い歴史であると考えられるが、郷土の自然（特に川越は高松海岸という恵まれた環境もあり）や、各地区には祭りや伝統行事が堂々と残っていて、その中で住民は日々暮らしていて、まさに今を生きる人が歴史を創っている。本施設には、是非「川越らしい」優れた自然・生活文化を取り込んだ計画を盛り込んでほしい。</p> <p>3.若い世代のボランティアの育成を。 基本計画（案）には「子ども」とお年寄りとの交流や転入者と地域の交流が記述されているが、もう一つ若い世代との連携も考えてほしい。確かに地域のお年寄りなどからは、伝統行事や生活文化の伝承が期待されるが、やはり「子ども」をキーワードと考えれば、若い世代の既成概念にとらわれないボランティア活動も魅力である。よく「いまどきの若い者は」という言葉で若い世代を否定的な眼で見ってしまうが、「子ども」を含め、中学生、高校生の斬新な行動力、アイデアには傾聴すべき事が多々ある。本町には優秀な生徒が多い「県立川越高校」があり、是非とも担当行政の垣根を克服して高校生によるボランティア参加へのアプローチを検討してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本町としても継続して川越らしさを検討しているところです。 ・ご指摘の通り、本施設において、こども施策の視点は大切であると考えています。近年、公民館、図書館、資料館や科学館機能のベースに「子育て支援の場」を考慮した施設が、各地で誕生しています。文化が身近に触れられる場所で、町ぐるみによる子育て支援を展開していくことは、施設の利用率を高めるうえでも有効です。ただし、チルドレンミュージアムへの発展となると、検討組織に新たなメンバー、計画の再検討も必要になってきますので、「こども利用を考慮」という捉え方で貴重な意見として受けとめさせていただきます。 ・ご指摘のような自然・生活面からのアプローチについても、貴重なご意見として参考にさせていただき、引き続き検討していきたいと考えています。 ・若い世代のボランティア育成は、将来の町政にとっても有効であると捉え、本複合施設の運営を通して育成、参加いただけるよう、今後の設計と共に検討します。また、その組織が将来にわたりリレーションをしていける仕組みづくりには、学校との連携は一方策として検討していきます。
----	-----	---	--

36	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職員の養成の重要性について ・ 基本計画（案）のとおり複合施設の建設となれば、30頁の職員配置検討にも書かれているが、司書、学芸員などの専門職員の活躍が成否を担っていると考えて間違いない。専門職員やその他の職員配置をこの計画と並行して検討するとあるが、是非専門職については早期に採用して、基本設計の段階からこの計画に参画できるようにすべきである。 ・ 特に学芸員などは地域の文化、歴史などを研究して、その成果を企画展示や研究紀要として発表するのが求められ、お仕着せの施設、設備で展示を工夫するより、基本設計の段階から将来の展示構想を考えて、より使い勝手の良い施設、設備を考え無駄のない設計をすべき。このような施設は利用者にとって使い勝手は十分に考慮されるが、施設で働く職員の側からは使い勝手が犠牲になることが多いので、是非、早期に専門職を採用して働きやすい職場として設計すべきである。職員が展示を工夫した例として、旭山動物園が話題になっているが、そこには働く職員の創意工夫の結果でもあり、その施設で楽しく働くことへの意識が最大の動機だったと思う。是非ハードウェアよりソフトウェアの充実を図るためにも、専門職員をはじめ人材の早期養成を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘の通り、専門職員の採用については、この基本構想の検討初期段階から懸念され、現在も専門職員の早期採用については鋭意検討中であります。もちろん、基本設計以降の計画には、MLKの枠を越えた専門職員の意見を十分反映していきたいと考えています。
37	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設は、図書館の利用者、公民館の利用者の内訳をみても、子ども、子育て世代の女性、高齢者が多い。若年、壮年、子育て世代の男性も利用してみようかな、と思えるようなきっかけをつくり、あらゆる世代の交流ができたらと思う。 ・ 男子用トイレにもおむつ交換のできるスペースがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご提案頂いた世代間交流は、まさに新施設の方針の1つであり、13頁「図書部門の整備方針」のコンセプト及び、24頁「施設計画の概略検討」と同じ方向ではないかと思えます。引き続き検討していきたいと考えています。 ・ トイレ等の施設の詳細検討については、今後の基本設計以降で具体的な計画を行う予定です。